

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定) 実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の多様な進路希望やニーズに対応した教育課程を編成する。 基礎学力の定着を図るとともに、生徒が主体的に学ぶ姿勢や態度を養い、自己肯定感を育むための学習活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の進路希望やニーズの把握に努め、教育課程の編成を図る。 ②わかる授業を実践し、基礎学力の定着を図りながら、生徒の学習意欲や主体的に学ぶ態度を養い、自己肯定感を育む教育活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教育課程について検証し、生徒の進路実現に結び付く教育課程の編成について見直しを行う。 ②指導と評価の一体化の視点から組織的な授業改善を図れるよう、校内研究授業や授業研究会を実施する。 ②ICT機器を活用した授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の進路希望や実態を把握し、履修可能な選択科目等の見直しをすることができたか。 ②生徒による授業評価の各項目において、平均値が3.0以上となったか。 ②ICT機器を活用した教材の作成が進んだか。また、1人1台端末を活用できたか。
2	生徒指導・ 支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の課題に応じた知識を身に付けさせ、個に応じた組織的な指導体制を充実させる。 ビジネスマナー教育を大きな柱とし、基本的な生活習慣を身に付けさせ、生徒会活動や部活動を通し健全な人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒支援を充実させるために、生徒情報共有会のSC・SSWとの情報共有、外部機関との連携を行う。 ②基本的な生活習慣を身に付けさせ、生徒が主体的に取り組める支援体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①かながわ子どもサポートドックの情報を、スクリーニング会議で評価し、この情報を元に、外部機関と連携する。 ②年度当初に1年間の活動の流れを確認し、職員と生徒の連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①かながわ子どもサポートドックの評価を職員とSC・SSWと共有できたか。外部機関と情報を共有できたか。 ②各行事ごとにアンケートを実施し、達成感や充実感を読み取ることができたか。
3	進路指導・ 支援	<ul style="list-style-type: none"> 社会的・職業的に自立するために必要な能力や態度を、体験的な学習の機会を通じて育成する。また、キャリアの発達段階を意識した進路指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒一人ひとりがしっかりとした職業観や勤労観を身につけ、自らのキャリア形成について主体的に取り組むことができるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①進路ガイダンス等で具体的な目標設定と効果的な講師選定を行う。 ・インターンシップ等を通じて具体的な職業観の育成を図る。 ・ICT等を使用し、細やかな情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①進路行事のアンケート結果から、生徒の充実感や進路意識の向上を図ることができたか。 ・ICT等を使用した情報提供がどれだけ進んだか。
4	地域等との 協働	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携や協働活動を通じて、地域に根ざした学校づくりを推進する。 本校のPR活動を積極的に行うなど広報活動を充実させ、地域や近隣小中学校への情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地元自治会や小田原市など地域との連携を積極的に深めていく。 ②小田原市をはじめ、地元自治会や近隣の小中学校との連携事業に参加し、様々な場面で本校のPR活動を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①海岸清掃ボランティアへの参加や自治会との交流を積極的に図る。 ②中学校の高校説明会や県西地区説明会に参加し、本校の魅力が伝わる広報活動を積極的に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ボランティアに参加した生徒や自治会にアンケートを実施し、満足度90%以上であったか。 ②各説明会で中学生や保護者にアンケートを実施し、満足度90%以上であったか。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 災害の際に、適切に生徒の安全を確保するための行動計画の策定および近隣と協調した活動を推進する。 持続可能なPTA活動の在り方を模索する。 ヒヤリハットから重大な事故等に繋がることあるため、職員間のコミュニケーションを密にし、今まで以上に風通しのよい職場環境の構築を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①火災、地震(津波)を想定した避難訓練の新しい形態を検討する。 ②職員及び保護者に負担の軽減を図れるようにする。 ③定期的に事故防止及び職員の不祥事等に対する意識向上を図れる施策を継続的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①災害想定や避難訓練の実施時間を見直す。 ②組織の改編、オンライン化を進め、継続的な活動ができるように検討を重ねる。 ③事故防止会議やG会議、教科会議等で職員への意識向上を図るための活動を、継続的に行う 	<ul style="list-style-type: none"> ①実施後の効果測定を行い、改善点等を見出す。 ②具体的に会合等数が削減できたか、オンライン化の推進がどこまで行えたか。 ③事故・不祥事が発生せず、職員が働きやすい環境であると評価できるか。